

# コロナ禍における入学前教育の取り組み

田中 雅章

Email: m\_tanaka@jc-humanitec.ac.jp

ユマニテク短期大学 幼児保育学科

## ◎Key Words 初年次教育, FYE (First Year Experience)、入学前オリエンテーション

### 1. はじめに

日本で新型コロナ新型コロナウイルスの陽性患者が確認されたのは令和2年1月15日で、中華人民共和国湖北省武漢市から帰国した男性だった。初めの頃は、患者が急激に悪化し死に至るような恐ろしいウィルスと知られておらず、爆発的に患者が増加するとは考えられていなかった。しかし、その後陽性患者の増加がおさまることはなかった。

ついには、政府は2月27日に新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、全国の小中学校、高校、特別支援学校を3月2日から春休みまで臨時休校とするよう、要請することを決めた。政府が臨時休校を要請する以前に、ほとんどの大学や専門学校では卒業式や入学前教育・入学前オリエンテーションを中止あるいは規模縮小した

例年ならば、3月の末ごろから、2泊3日の宿泊を伴う入学前教育を実施していた。ところが、政府の臨時休校を受けて、学生を集めた入学前教育が開催不可能になった。在学生ならばLMSとiPadによるデジタル教材の配信が可能であり、学生とコミュニケーションを取る環境が整っている。

しかし、入学前の学生に対してはオンラインで入学前教育を行う情報機器を貸与していない上にその利用教育も済んでいない状態だった。にもかかわらず、試行錯誤をしながら入学前教育を実施した報告を行う。

### 2. 入学前教育の方法

令和2年1月10日～2月14日に日本全国を調査地域として実施された内閣府の青少年のインターネット利用環境実態調査によると、高校生スマートフォンの所有率は98.6%になったと公表されている。

そこで、入学予定の学生の入学前教育は、オンラインによる入学前教育を実施する事を決めた。使用する電子機器は、学生が所有するスマートフォンを活用することとなった。ただし、学生のポケット料の負担を軽減するために、学校側から学生への資料は宅配便や郵送を利用する。学生から学校への提出は原則スマートフォンで行い。スマートフォンで提出できない学生は郵送で受け取ることとした。

初回の3月16日の〆切までにスマートフォンで提出できなかった学生は78名中3名のみで、ほとんどの学生がスマートフォンで提出することが

できた。2回目の3月31日の〆切までは、全員の学生がスマートフォンで提出することができた。

今回の提出受付システムは、費用と時間の結果、Googleフォームで作成した。フォームで受け付けたデータはスプレッドシートへ蓄積される。担当する教員の負担を軽減するため、自動採点をする機能を追加した。さらに間違っている回答は復習するページを示す。なお、学生に返却する採点結果は、コンピュータの無機質なコメントではなく、担当教員が手書きの言葉を記入するようにした。これは、対面教育ができない教員が学生との信頼関係の構築するためである。

### 3. 学生の評価とまとめ

4月10日に新型コロナの感染を防止するために3つの密を避けつつ、新入生を2班に分けてオリエンテーションを実施した。この時に入学前教育の取り組みを学生に評価してもらった。〆切りまでに53件の回答があった。その結果を表1 入学前教育の評価に示す。

表1 入学前教育の評価

	そう思う	どちらでもない	そう思わない
コメントを読んだ	44 83.0%	9 17.0%	0 0.0%
コメントは嬉しい	40 75.5%	12 22.6%	1 1.9%
コメントに親しみ	31 58.6%	21 39.6%	1 1.9%
投函手間が不要	48 90.6%	5 9.4%	0 0.0%
いつでも提出可	46 86.8%	7 13.2%	0 0.0%
感染の心配がない	46 86.8%	3 5.7%	4 7.5%
通学費用が不要	33 62.3%	18 34.0%	2 3.8%
通学時間が不要	30 56.6%	22 41.5%	1 1.9%
コロナの心配がない	46 86.8%	3 5.7%	4 7.5%

スマートフォンを活用した入学前教育はおおむね好評であったと思われる。コロナ感染の心配が解消したことよりも、郵便による投函をしなくて済む提出の利便性の向上の方の評価が高かった。また、学生のアンケートによると手書きのコメントは好評で、手書きコメントに対して教員に対して親しみを感じていた。短期間で新型コロナの対応を行ったが、学生に対する配慮が功を奏したと評価する。